

作品番号035-1



①外観全景：1・2Fをひねった形状で店舗に必要な視認性を持たせ、素材（焼杉といぶし瓦）で街並に溶け込む外観を形成



⑤1F（接骨院）エントランスから待合室：間仕切り壁にカシュー（人工漆）を採用し、安心感と信頼感を印象付ける



⑥1F（接骨院）待合室からエントランス方向：引き入れる明るさと落ち着いた色合いを合わせる



⑦1F（接骨院）施術室：間仕切り壁の上部を開放し、1ルーム化することで、患者とスタッフの距離を縮め、冷暖房費を節約する



⑧1F（接骨院）施術室：間仕切り壁を紺色とし、色の持つイメージからスタッフへの信頼感を感じさせ、患者との距離を縮める

deguchi 接骨院

所在：
用途：店舗併用住宅
規模：地上2階+ロフト
構造：木造在来軸組構法
用途地域：市街化調整区域
敷地面積：474.97㎡
建築面積：92.75㎡
延床面積：178.94㎡



①1・2Fをひねった形状の外観で ②2Fを周辺の街並に平行するこ

作品番号035-2



⑨2F (住居) 水廻りBOX：壁は1F同様人工漆(カシュー)塗り



⑩2F (住居) リビングダイニング+和室



⑫2F (住居) 南側大開口からリビングへ明るい光が差し込む



⑪ロフトから2Fを見下ろす：各室がロフト空間でつながり、1ルーム化することで、どの空間においても家族の気配を感じることができ、冷暖房費も節約する



⑬ロフト：排熱と採光を兼ねた大開口ジャロジ窓



⑭インナーバルコニー：採光と落ち着きのイメージをもたらす

【設計趣旨】

バイパス道路(国道)新設により生まれた三角形の変形地で、北側に昔ながらの住宅地、南側にバイパスに沿った店舗群(予定)、という位置関係にある店舗併用住宅。(1階:接骨院 2階:住居)

クライアントの要望は、以下2点。
1. 人が集まる接骨院にしたい 2. 和風の外観にしたい

まず、同じ形の1階と2階をひねるような形状で店舗に必要な視認性を持たせ、素材(焼杉といふし瓦)で街並みに溶け込む外観を形成した。(写真①~④)

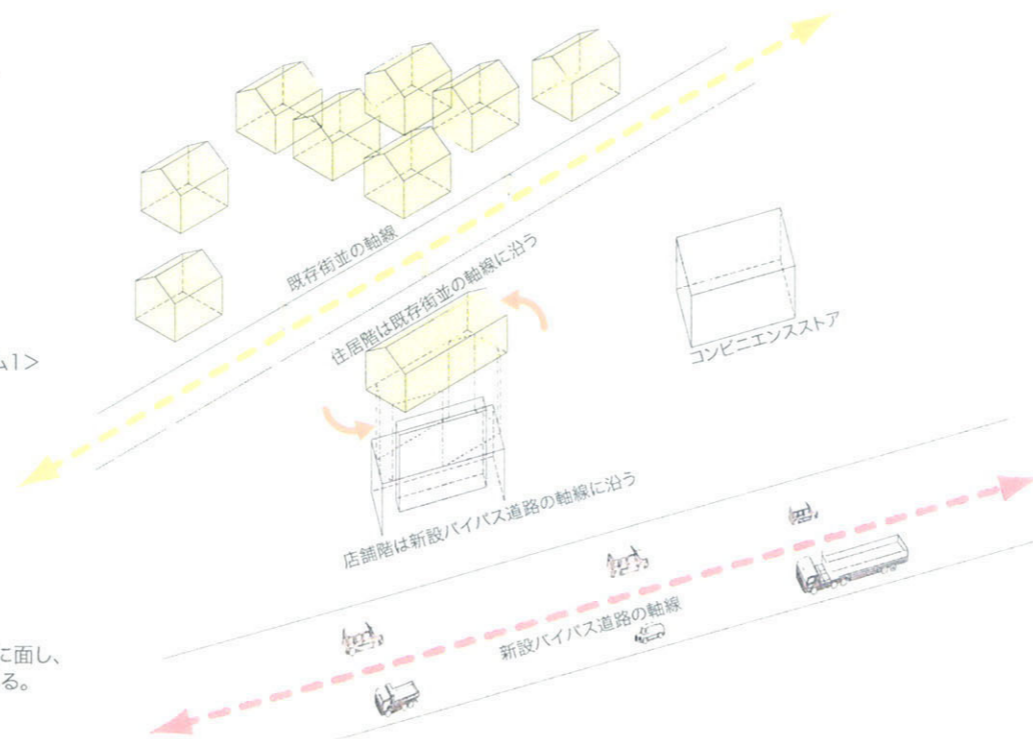
1階はバイパスに平行することで、隣地に建設予定のコンビニとも平行になり、今後建設されるであろうバイパス沿いの店舗群の景観を形成する。
2階は周辺の街並みに平行することで、既にある住宅地の景観に溶け込む。(写真①~④) <ダイアグラム1>

1・2階のズレを利用した雁木状の部分は、1階部分では、雨よけとなり接骨院と住宅のエンタランスポーチや設備機器置場の役割を果たし、2階部分では、バルコニースペースとなる。(写真②、③)

1階(接骨院)は、施術室と待合室の間仕切りにカシュー(人工漆)を塗装し、漆特有の質感からくすくすとしたイメージと落ち着いた配色(紺色)によって、リラクゼーション効果を生みだすことを試みた。(写真⑤~⑧)

2階(住居)は、バースのきいた空間構成とし実面積以上の広がりを感じる。水回りを囲んだBOX(1F同様カシュー塗り)に面して居室をバース状に配置し、どの部屋からも同一の壁に面し、ロフト空間でつながっていることで、どの空間においても家族の気配を感じることができるとなっている。(写真⑨~⑭)

開業後の営業状況は順調な様子で、新規客の獲得はもちろん、固定客もつき、仲良くなった常連客を、自慢の2階住居スペースに案内することもあるそうだ。



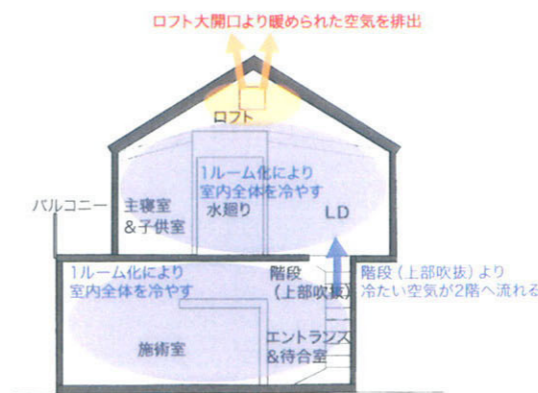
<ダイアグラム1> 新設バイパス道路と既存街並の軸線のズレによる立体的なファサード

<室内環境>

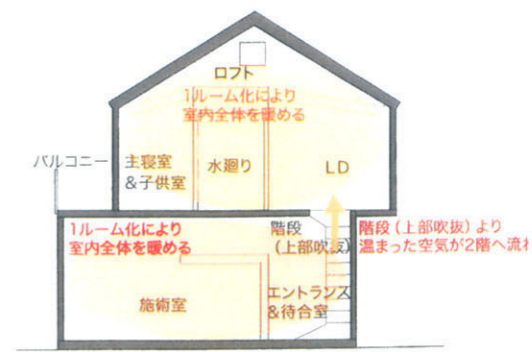
地球温暖化に代表される環境問題に対する認識が高まる中、近年の住宅では、室内の快適さを求め生活の大部分を電気設備に頼っている。エアコン等の電気設備の一部は、生活になくはならないものとなっていることは事実だがそれらできるだけ使用することなく、かつ快適に過ごすことができる空間(住宅)を創ることが必要だと考えた。

1階が接骨院という店舗の性質をもつ以上、何らかの冷暖房設備に頼らざるを得ない。
1階の冷暖房設備を常に使用することを前提条件とし、それをできる限り活用することにより、2階の住居については冷暖房設備をできる限り使用しなくても快適に過ごすことができるよう設計した。(ダイアグラム2)
まず、1階・2階をそれぞれ1ルーム化し、効率化を図った。
2階へ上がる階段の上部を吹抜とし、ロフト上部に大きな開口を配置し、空気の流れを計画した。
夏は、1階の冷たい空気が2階へ流れ、暖められた空気はロフト上部の大開口から排出される。(写真⑪、⑬)
冬は、1階で暖められた空気が2階へ流れ、1ルーム化された2階全体を暖める。(ダイアグラム2)

「空気の流れを最大限に利用する設計+動力+オール電化」の組合せで、ランニングコストを抑えたいうえ、2階住居の冷暖房は夏冬とも就寝前のみ(深夜電力)の使用で生活できる省エネ住宅となった。

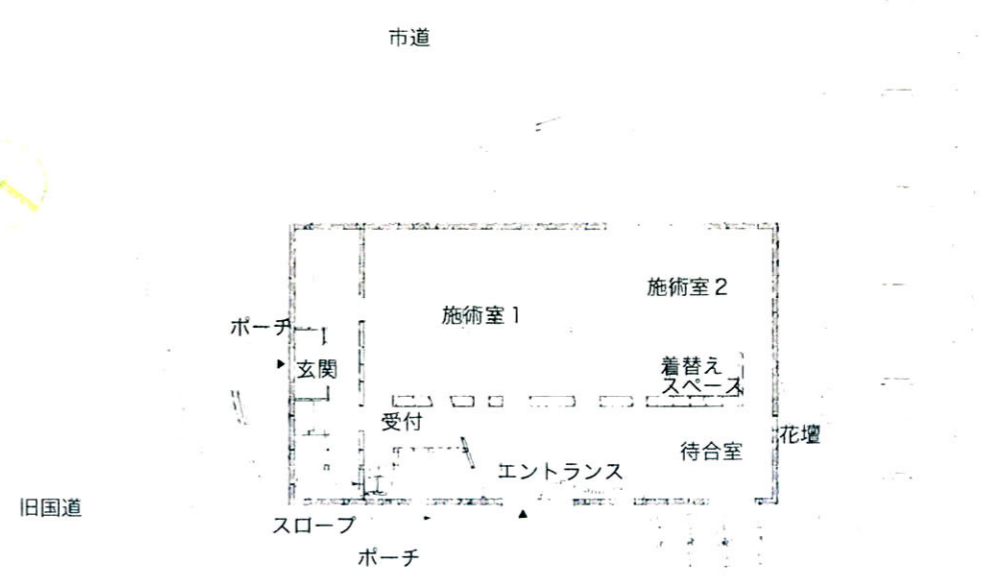
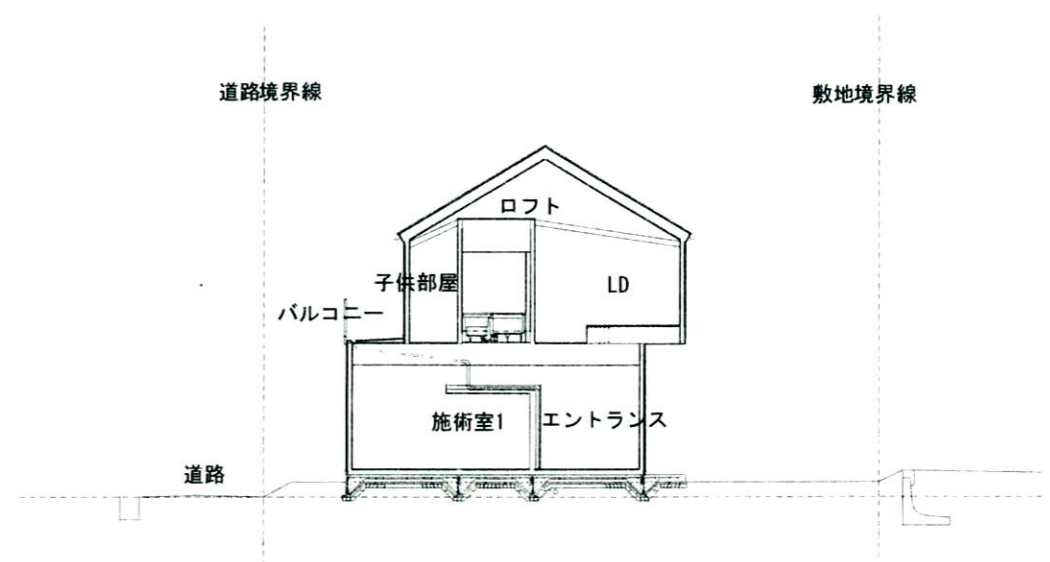
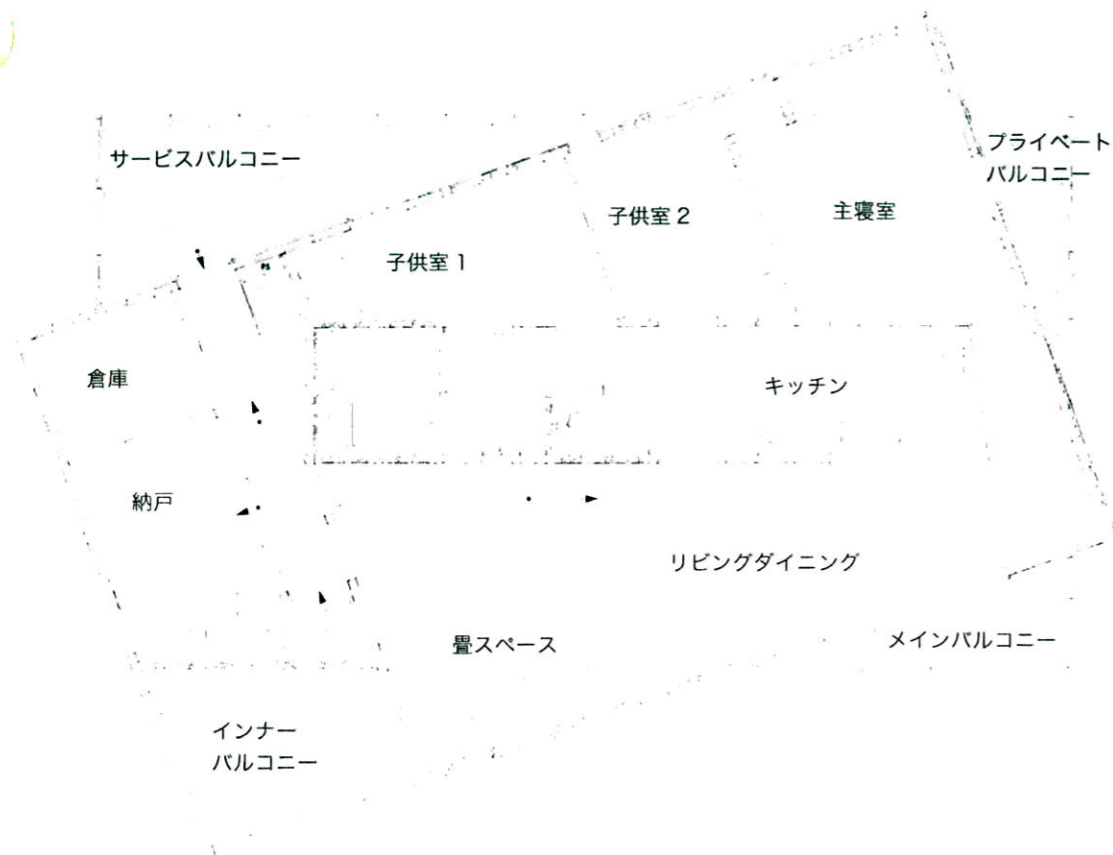


ダイアグラム2(夏期) *2階居室部はエアコンを使用しない設定



ダイアグラム2(冬期) *2階居室部はエアコンを使用しない設定

作品番号035-3



ロフトF平面図 S=1:100

配置図兼1F平面図 S=1:200